

外国語活動・外国語研究会

1 研究主題（テーマ）

「生きたコミュニケーション体験を通じた外国語活動・外国語科の展開

～英語で思いや考えを伝え合う子どもの育成～」

2 研究主題について

本研究会では、「生きたコミュニケーション体験を通じた外国語活動の展開」を主題とし、研究を進めてきた。子どもたちが「聞きたい」「伝えたい」「かかわりたい」という思いをもてるような授業を実践し、授業のつくり方や効果的な手立て等を共有してきた。形式的なコミュニケーションではなく、「本当に自分が伝えたい考え・気持ちの交流」を「生きたコミュニケーション」と定義し、育成を目指す資質・能力を育めるよう言語活動の充実を目指してきた。

言語活動の充実に向けて実践を重ねていくと、言語活動における目的や場面・状況等の重要性を再確認することができた。言語活動において、子どもの日常に沿った「目的や場面、状況等」を設定することが、充実を図る上での指針となるととらえている。

教科となった高学年の外国語科においては、言語活動の充実に加えて、「指導と評価の一体化」の視点からも研究を深めている。研究を進める過程で、教師の授業改善と子どもの学習改善を図りながら、効果的な指導の在り方を会員と共有していきたい。

3 研究方法

①実践提案

- ・実践提案をもとに意見交換しながら、それぞれの発達段階で目指す資質・能力や、その育成に向けて効果的な手立てについて共有する。
- ・子どもが「伝えたい思いは何か」を共有しながら研究するため、指導案に明記する。
- ・実践提案や意見交換が、会員自身の授業改善の手立てになるよう、視点を精選して議論を深めていく。

②実技研修会

- ・体験的な活動を通し、意見を交流することで理解を深める。
- ・会員のニーズを把握しながら、研修内容を決める。

③一斉授業研究会

- ・様々な授業形態や、教師の手立ての工夫等を実際に参観し、協議することで、実態を踏まえた授業を共に考えていけるように、複数校で開催する。
- ・複数校で開催することで、多様な授業の在り方を参観し、協議を通して、会員自身の授業改善の手立てとなるようにする。

④第二次教育研究大会

- ・小学校教育研究会の研究テーマを踏まえ、今年度本研究会の成果と課題について第二次研究大会で報告する。

⑤小中連携

- ・中英研との連携を図り、意見を交流することで、小中連携を生かした授業づくりについて考え、共通理解を図れるようにする。

⑥区研究会との協働

- ・区外国語活動・外国語研究会と協働し、定期的に各区との情報交換を行い、より多くの教職員のニーズに応えられるようにする。

⑦研究のまとめ

- ・研究会を行う度、成果と課題を記録に残すことで、次回の運営や次年度の研究に生かしていけるようにする。
- ・研究の記録（提案内容や協議内容など）を整理し、年度末に研究のまとめとして紀要に集約することで、授業づくりの視点や効果的な手立て等について共通理解を図れるようにする。

4 年間活動(事業)報告

5月12日(水)

★オンライン実施

講演研修会

講師：玉川大学 教育学研究科 教職専攻 准教授 西村 秀之先生

6月16日(水)

★オンライン実施

研究方針説明会

提案：横浜市小学校外国語活動・外国語研究会 学年研究

7月 7日(水)

☆集合開催 <みなとみらい本町小学校> ※感染症対策の徹底

実技研修会

提案：横浜市小学校外国語活動・外国語研究会 研修部

第1回区代表者連絡会

10月 6日(水)

★オンライン実施

一斉授業研究会指導案検討

提案：横浜市小学校外国語活動・外国語研究会 一斉授業研究部

11月10日(水)

☆集合開催 <斎藤分小学校> ※感染症対策の徹底

実践提案

提案：横浜市小学校外国語活動・外国語研究会 学年研究部

ミニ研修会

提案：横浜市小学校外国語活動・外国語研究会 研修部

第2回区代表者連絡会(紙面開催)

12月 1日(水)

☆集合開催 <馬場小学校、伊勢山小学校、間門小学校>

一斉授業研究会

提案：横浜市小学校外国語活動・外国語研究会 一斉授業研究部

※感染症対策の徹底

1月12日(水)

☆集合開催 <斎藤分小学校> ※感染症対策の徹底

実践提案

提案：横浜市小学校外国語活動・外国語研究会 学年研究部

ミニ研修会

提案：横浜市小学校外国語活動・外国語研究会 研修部

※感染症対策の徹底

2月 9日(水)

★オンライン実施

第二次教育研究大会

提案：横浜市小学校外国語活動・外国語研究会 一斉授業研究部

5 研究の成果と課題

<成果>

- 会員を対象に年間2度アンケート調査を実施し、会員のニーズを把握しながらの運営ができた。
- 児童の実態とカリマネを柱とした授業づくりを意識することができた。
- 感染状況を考慮しながら、集合開催とオンライン開催を使い分けて、研究を進められた。
- 一斉授業研究会は、事前録画した授業の動画を見て研究協議を行ったが、実際に対面で意見を交換し合うことで、様々な考えを聞くことができ、学びが深まった。

<課題>

- 思いを伝え合う活動に制限がある中での、効果的な指導法の探究に課題が残る。
- 他教科との関連を効果的に図ったカリキュラムマネジメントは、まだまだ研究が必要である。
- オンライン開催だと、児童の動画が使いづらかったり、なかなか意見交流ができなかったり、運営の方法にさらなる工夫が必要だと感じた。